

現代日本の住宅における食事炊事生活の形成にあらわれた連続性と変化
 の実証的研究 大阪を中心とした地域の都市部における独立住宅の住宅内部の空間のく
 みたてられかたとその成立過程を中心に その2 食事炊事空間のくみたてられか
 と使われかた 大阪工大建築 塩谷寿翁 河合祐

日本女大家政 沖田富美子 ○鈴木淳子 熊本女大生活科学 亀山春

はじめに：本報はその1につづくものである。ここでは対象住宅の食事炊事空間のく
 みたてられかたと使われかたにあらわれたしくみとその変化を説明する。

結果の要約：①対象住宅の平面のくみたてられかたは、おもに家族生活および日常の接
 客生活におうじてつかうことを予定してもうけられているとかんがえられる部屋の配列の
 されかたにつよく関係している。すなわち一階部分のおおくの部屋は、食事室兼台所およ
 び玄関に直接つながるようにもうけられている。またこれらの部屋は50年代にくらべて増
 えている。なかでも日常の接客生活に対応してもうけられているとみられる部屋はいちじ
 るしく増加している。②その型式は、食事室兼台所を中心に部屋が配列されるくみたてら
 れかたが典型となっており、それらの部屋の配列のされかたは年次をおってえらばれる傾
 向にある。③家族生活におうじてつかわれている食事室兼台所につながる部屋では、家族
 にとってオモテ向きの生活とウチ向きの生活とが空間的にみて混在するような使われかた
 がみとめられる。また概してみればこの使われかたは、住宅規模および住宅内部の空間の
 くみたてられかたにかかわらずに一般的にみられる。④しかしながら食事室兼台所は家族
 の生活にのみ対応してつかわれており、接客行為はこれに混在していない。接客行為およ
 び個人(夫婦)の生活行為は食事室兼台所に直接つながる部屋にとどまっており、食事室
 兼台所は家族にとってウチ向きの生活の場としてたもたれているのである。